



昭和28年に創立された銚子商工信用組合は、地域の発展と繁栄に貢献する身近な金融機関として、千葉県銚子市を中心に、千葉県北東部や東葛地区などへ22の店舗を展開している。同信用組合では、職員が業務で利用する端末のセキュリティ対策を強化するために、Sophos Synchronized Securityを構築し、サイバーリスクの削減に取り組んでいる。

CUSTOMER-AT-A-GLANCE



銚子商工信用組合

設立 昭和28年11月
 本店所在地 千葉県銚子市東芝町1-19
 預金 2,785億円
 貸出金 1,237億円
 自己資本 120億35百万円
 (うち出資金8億65百万円)

自己資本比率 9.36%
 店舗数 22店舗
 常勤役員数 264名

ソフォスソリューションズ
 Sophos Synchronized Security

当信用組合でも、サイバー攻撃に対する防御には取り組んできましたが、2018年に金融庁の指針がアップデートされたこともあり、さらなる強化が必要だと感じていました。

銚子商工信用組合
常勤理事 鵜野澤 勅氏



「いつも身近に ふれ愛バンク」をキャッチフレーズに、地域の明るい未来に貢献する銚子商工信用組合は、相互扶助の理念のもと、地域と共存共栄で発展してきた。同信用組合の事務指導部では、職員が業務に利用するPCやネットワークの整備を担っている。同部では、金融庁が2015年7月に策定し、2018年に更新した「金融分野のサイバーセキュリティ強化に向けた取り組み方針」を達成するために、これまでの防御に加えて、セキュリティにおけるリスクの把握や分析に取り組んできた。その強化の一環で、同部では外部の専門家と協力し、Sophos Synchronized Security を構築した。

ビジネスチャレンジ

「金融分野におけるサイバーセキュリティ強化に向けた取組」

銚子商工信用組合の事務指導部が、Intercept X Endpoint*とXGS Firewallを組み合わせたSophos Synchronized Securityによるサイバーセキュリティ対策を強化した背景について、同部を統括する常勤理事 鵜野澤勅氏は、次のように説明する。

「セキュリティ対策の強化は、金融庁からも『金融分野におけるサイバーセキュリティ強化に向けた取組』として、以前から方針が

示されていました。当信用組合でも、サイバー攻撃に対する防御には取り組んできましたが、2018年に先の指針がアップデートされたこともあり、さらなる強化が必要だと感じていました。」

事務指導部で、具体的な機器やソリューションの選定を行ってきた部長 加瀬順一氏も取り組みの経緯を次のように振り返る。

「金融庁から示された方針では、これまでのウイルス対策に加えて『サイバーセキュリティに係るリスクやその対応策等について把握・分析に取り組む』という項目が盛り込まれていました。加えて『実態把握』も求められていました。こうした課題をクリアするために

は、従来型のウイルス対策では不十分で、より高度なセキュリティ対策と、監視や記録といった性能も求められていました。そこで、電算課が中心となって具体的なソリューションの選定に取り組みました。」

※Central Intercept X Advanced with XDRに改称

テクノロジーソリューション

「Sophos Synchronized Securityの
効果に注目」

サイバーセキュリティ対策の選定から運用に携わってきた同部の電算課・信用リスク管理システム課の課長 根本健史氏は、Sophos Synchronized Securityという選択に至った経緯を次のように話す。

「当信用組合では、かねてからセキュリティ対策の一環として、本支店の事務端末は、すべてシンクライアントを採用していました。約100台のシンクライアントが、本部で管理するサーバーにアクセスしています。また、本部でもシンクライアントへの移行を計画していますが、まだ100台ほどのWindows PCを職員は利用しています。これらの事務端末す

べてに、安全で信頼できるエンドポイントセキュリティ製品を導入することにしました。」製品の選定にあたり、電算課では内部での検討に加えて、外部の協力会社にも相談をもちかけた。その協力会社について、鶴野澤氏は「きっかけは、千葉県の柏の葉オープンイノベーションラボKOILでした。ベンチャー企業や中小企業を支援する施設で、私が毎週のように経営相談に応じていました。そのベンチャー企業の中に、情報セキュリティマネジメントに長けた株式会社アクシスがあり、代表の宮腰氏を紹介してもらいました」と説明する。



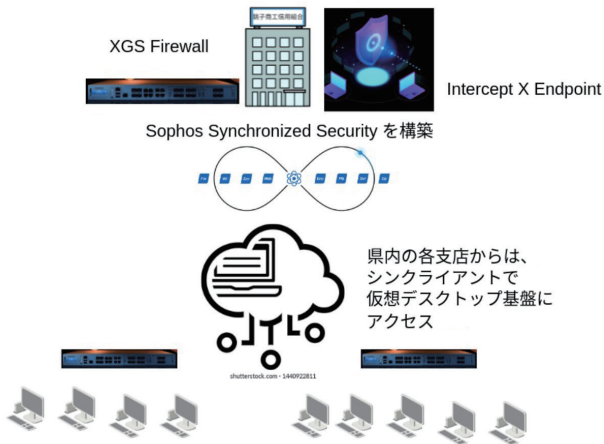
銚子商工信用組合
事務指導部 電算課・信用リスク管理システム課 課長
根本 健史氏

協力会社との関係について、加瀬氏は「セキュリティ対策について相談するよりも前に、アクシスさんには当信用組合のシンクライアント再構築やネットワーク環境の整備などを依頼するようになっていました。そのため、事務指導部で運用している端末やネットワークにも精通していたので、エンドポイントセキュリティを含めた、最適なソリューションのアドバイスをもらいました」と補足する。こうした経緯を経て、根本氏は「アクシスさんからIntercept X EndpointとXGS Firewallを組み合わせたSophos Synchronized Securityを提案してもらいました。当初は、エンドポイントだけを考えていましたが、Synchronized Securityの性能を調べてみたところ、当信用組合が求めるセキュリティ対策の強化に適していると判断しました」と選定の経緯を振り返ります。

導入の成果

「セキュリティ対策の強化と運用負荷の低減を両立」

銚子商工信用組合の事務指導部とアクシスが協力して導入したSophosのSynchronized Securityは、図のような構成になっている。



本部で管理しているサーバーの仮想デスクトップ基盤(VDI)のWindowsクライアントと、本部の業務に利用されているWindows PCにIntercept X Endpointが導入されている。また、本部と支店を結ぶためにXGS Firewallが導入され、Sophos Synchronized Securityが機能している。構築されたセキュリティ対策について、根本氏は「運用部門では、これまでのセキュリティ対策と比べて、大きな安心感が得られました。導入から数ヶ月が経過しましたが、インシデントなどは発生していません。また、設定したセキュリティの強度に合わせて、何かあればメールがすぐに届くので、危機の兆候も早期に発見できるようになっています。以前のセキュリティ対策では、自分で管理コンソールにログインしてチェックしなければならなかったのが、運用の負担も大幅に軽減されました」と評価する。

加瀬氏も「セキュリティ対策に割ける人材も限られているので、Sophos Synchronized Securityのポリシー設定においては、できるだけ自動化を心がけました。もしも、ウイルスやマルウェアを検知したら、すぐに遮断する設定にしています。また、収集されるロ

グが改ざんできないように、クラウド側のSophos Centralに送っています。このログの収集が、『金融分野におけるサイバーセキュリティ強化に向けた取組』における実態の把握や、インシデントが発生した場合の分析につながります」と導入の成果を語る。



銚子商工信用組合
事務指導部 個人資産相談業務 部長
加瀬 順一氏

今後の展望

「継続的なセキュリティ対策の強化に取り組む」

今後に向けた取り組みについて、根本氏は「管理者を認識するために、二要素認証が導入されたので、強化されたログイン条件に合わせた運用を整えていきたいと思います」と管理面での対応に触れる。

また、加瀬氏は「近く、脆弱性診断を計画しています。もし、そこで何か課題が見つかったときには、アクシスさんなどに相談して、Sophos製品の設定を含めた対応を推進していきます」と話す。

さらに、鵜野澤氏は「これからは、事務部門内だけではなく、インターネットを介した外部とのやりとりが増えてくると予想しています。そのため、セキュリティ対策もそうした変化に合わせて、システムやソリューションを強化していく必要があるでしょう。一方で、セキュリティを強固にし過ぎて、職員が使いにくくなって業務の生産性が低下したり、金融の機能そのものが働かなくなるとは本末転倒です。そうならないように、外部の知見やいろいろな技術を聞きながら、取り組んでいきたいと思います」と展望を語る。

